

都市再生整備計画 事後評価シート
黒磯駅周辺地区

令和5年3月
栃木県那須塩原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県	市町村名	那須塩原市	地区名	黒磯駅周辺地区			面積	141.6ha			
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	4.427百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	都市再生整備計画	黒磯駅東口広場、黒磯駅東西連絡通路、市道宝来通り線、市道原街道線、市道宮町横線、黒磯駅西口駐輪場、黒磯駅西口駐車場、市道本宮横1号線、市道本宮横2号線、(仮称)まちなか交流センター、(仮称)駅前図書館								
		提案事業		-								
		効果促進事業		街なみ環境整備事業、空き店舗活用事業、空き店舗改修費用を助成、NPO法人設立支援事業、アドバイザー派遣事業、イベント活動支援事業、事業活用調査、黒磯駅前アーケード撤去事業								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	都市再生整備計画	-	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業		-	-			-				
		新たに追加した事業	基幹事業	都市再生整備計画	-	-			-			
		提案事業		-	-			-				
	交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			なし					
	変更	-	-	なし			なし					
	2)目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
指標1		中心市街地の満足度	%	23.2	H22	66.6	R3	59.3	○	あり	調査の結果、平成25年度と比較して満足度の高い評価の割合が2倍以上となった。また、「そう思わない」と回答した割合は41%から5%まで減少し、「そう思う」との回答は9%から34%に増加した。満足度の大幅な増加から、事業への市民理解度が高いと判断する。ただし、調査によると少なからず新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことが考えられ、本来であれば目標は達成されていたことが想定される。	-
										なし	調査の結果、平成25年度と比較して、1時間以上滞在している来街者の割合が2倍となり、駅周辺の魅力や賑わいが創出・向上していると判断する。平成25年度と比較して滞在時間が「15分以内」と回答した割合が40%から18%まで減少し、「3時間以内」「3時間以上」との回答が2倍に増加したことから、駅周辺で複数の目的ができ、利便性が向上していると判断する。ただし、調査によると約4割の人が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて滞在時間を減少させたと回答しており、本来であれば目標は達成されていたことが想定される。	-
指標2		来街者の滞在時間	%	17.6	H23	48.4	R3	37.5	○	あり	調査の結果、平成25年度と比較して約15%減少した結果であったが、東西駅前広場や駐輪場・駐車場が整備され、利用者の利便性が向上したと判断する。ただし、調査によると約3割の人が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて外出頻度が減少したと回答しており、本来であれば利用者が増加し目標は達成されていたことが想定される。	-
										なし	調査の結果、平成25年度と比較して約15%減少した結果であったが、東西駅前広場や駐輪場・駐車場が整備され、利用者の利便性が向上したと判断する。ただし、調査によると約3割の人が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて外出頻度が減少したと回答しており、本来であれば利用者が増加し目標は達成されていたことが想定される。	-
指標3		東西連絡通路利用者数	人/12h	480	H23	510	R3	409.0	○	あり	調査の結果、平成25年度と比較して約15%減少した結果であったが、東西駅前広場や駐輪場・駐車場が整備され、利用者の利便性が向上したと判断する。ただし、調査によると約3割の人が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて外出頻度が減少したと回答しており、本来であれば利用者が増加し目標は達成されていたことが想定される。	-
										なし	調査の結果、平成25年度と比較して約15%減少した結果であったが、東西駅前広場や駐輪場・駐車場が整備され、利用者の利便性が向上したと判断する。ただし、調査によると約3割の人が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて外出頻度が減少したと回答しており、本来であれば利用者が増加し目標は達成されていたことが想定される。	-

3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	—				
									—	—	—	—
4)定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 市民交流施設や図書館整備により、対象地区の環境が整備されたことで、黒磯駅周辺の回遊性につながった。 まちづくりの機運を高める支援を行っており、駅周辺の満足度の向上に繋がった。 											
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	—		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	—			
		—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—	—			
		—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—			
	住民参加 プロセス	「えきつぶくろいそ」による活性化策の検討 【実施内容】市民の意見をまとめるチーム「えきつぶくろいそ」を運営し、那須塩原市まちなか交流センター「くる」と那須塩原市図書館「みるる」の整備に関するワークショップやイベントを開催した。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	—			
		—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	まちなか交流センターと那須塩原市図書館の開館をもって、えきつぶくろいそは解散した。			
		—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—			
	持続的なまちづくり 体制の構築	空き店舗チャレンジショップ事業 【実施頻度】随時申請受付 【実施時期】平成28年度～令和1年度 4か年 【実施結果】空き店舗を活用し新たな活動の場としてもらうことによって、遊休物件の有効利用と地域活性化に繋がった。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	令和2年度からは、賃借料ではなく設備費や改修費に対して補助を行っている。			
		—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—	より使いやすい補助金としたことから、今後、事業を活用して創業する事業者が増加するよう周知をしていく。			
		—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—			
持続的なまちづくり 体制の構築	地元団体法人化支援 【実施時期】平成31年1月29日～平成31年3月29日 【実施結果】黒磯駅周辺地区の活性化に取り組んできた地元団体を法人化することで、まちなか交流センターの指定管理者制度の導入を見据えるとともに、駅周辺地区でのイベント等を通してより主体的に黒磯駅周辺地区の活性化に尽力いただけるようになった。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	法人化し、より主体的にまちなか交流センターの運用やイベントを開催しており、住民が主体となって中心市街地の活性化に取り組んでいる状況といえる。今後は、イベント等を通して、黒磯駅前の魅力、那須塩原市の魅力を共に発信していけるよう連携していく。				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				
持続的なまちづくり 体制の構築	勉強会(講師派遣) 【実施頻度】合計4回 【実施時期】平成30年8月21日～平成30年11月30日 【実施結果】他施設で指定管理者を担っている事業者から講習をうけることで、施設管理や運用等具体的な内容を学ぶことができた。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	学習内容を踏まえ、まちなか交流センターの特性や黒磯駅周辺地区にあった運営計画を立て、市民に愛される交流センターの運営を検討していきたい。				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				
持続的なまちづくり 体制の構築	「えきつぶ・好きつぶ・食べマルシェ」への活動支援 【実施時期】平成27年2月25日 【実施結果】黒磯駅周辺地区を舞台としイベントを開催。イベント参加者に、黒磯駅周辺地区や新たな施設の魅力を伝えられる場となり、地区外の人々の関心を集めることができた。また、黒磯駅周辺地区の人々が中心となりイベントを開催したことで、駅周辺地区整備の機運を高めることができた。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	事業は終了したが、今後もまちなか交流センターを中心としてイベントを開催し、駅周辺地区の活性化に取り組んでもらえるよう補助金等により支援していく。				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				
持続的なまちづくり 体制の構築	アートイベント企画運営支援 【実施頻度】9回 【実施時期】平成30年度～令和4年度 【実施内容】「ART369プロジェクト」として、黒磯駅前のARTスペース等を会場に開催された企画展、写真展等のアートイベントや、ワークショップの開催支援(補助)を行った。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	今後も民間主体で継続できる体制への移行を進めるとともに、連携、支援していく。				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				
持続的なまちづくり 体制の構築	図書館管理運営計画策定業務委託 【実施時期】平成30年度 【実施内容】地域の賑わいの創出のため那須塩原市図書館の管理運営計画を策定した。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	今回の計画活用し、今後も管理運営に活用していく。				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				
持続的なまちづくり 体制の構築	図書館ロゴマーク等作成業務委託 【実施時期】令和元年度 【実施内容】那須塩原市図書館のロゴマークを作成した。		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	—				
	—		—			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	ロゴマークを使用することにより、市民に親しまれる施設にする。また、施設内のデザインの一によりインフォメーションセンターとしてのブランディングを図った。				
	—		—			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—	—				

様式2-2 地区の概要

※社会資本総合整備計画の効果促進事業を含む

黒磯駅周辺地区(栃木県那須塩原市) 都市再生整備計画事業等の成果概要				
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
<p>本市では、モータリゼーションの進展や大型店の郊外立地起因する郊外での無秩序な開発が行われた結果、拡散型の都市構造となっており、本地区を含む中心部では、人口減少と急速な高齢化とともに、低未利用地が散在しており、活力が失われている。しかし本地区は、旧来から中心地として商業、教育及び医療施設などの都市機能の集積が図られ、公共交通機関の拠点となるなど、都市活動の中心的役割を果たしてきた地区である。このことから、拡散型の都市構造を持続可能でコンパクトな都市構造へ転換させるため、都市機能と交通結節機能の強化を図り、地元商店街を中心とした街の魅力の再生による集住促進に資する事業に取り組み、官民一体となって目標である「都市機能の向上による持続可能な中心市街地づくりの再興」を目指す。</p>	中心市街地の満足度	単位：％ 23.2 H22	66.6 R2	59.3 R4
	来街者の滞在時間	単位：％ 17.6 H23	48.4 R2	37.5 R4
	東西連絡通路利用者数	単位：人/h 480 H23	510 R2	409 R4
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(仮称) 駅前図書館</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>都市再構築戦略事業 (仮称) まちなかセンター</p> </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div>				
<p style="text-align: center;">都市再構築戦略事業 黒磯駅東西連絡通路</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div>				
まちの課題の変化	<p>①都市機能と交通結節機能の強化という課題に対して、那須塩原市図書館「みるる」や那須塩原市まちなか交流センター「くるる」、東西連絡通路などの整備により、ハードとしての整備は充実している。今後は東西連絡通路を利用した施設に誘導するPRを実施し、東西連絡通路を利用する事を日常化させることや駅前駐車場や駐輪場の利用案内などにより、ソフト面による駅周辺施設の利便性を向上を図る。 ②地元商店街を中心とした街の魅力の再生による集住促進という課題に対して、地元団体「黒磯駅前活性化委員会」を法人化や黒磯駅前商店街を中心に「キャンドルナイト」「もったいない市」「年金セール」など、定期的なイベントを通じ、かつての賑わいと活気のある空間を創出した。今後は、定期的なイベントの継続の他に、日常的な居心地の良い空間づくりにより駅周辺の賑わいの創出を推進し、来街者の滞在時間を増やす。</p>			
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>～対象地区全体でさらなる魅力づくりとコミュニティ形成に取り組み、来街を促し、転入・移住につなげる～ 本計画では、拡散型の都市構造を集約型のコンパクトで持続可能な都市構造に転換させるため、駅周辺施設の整備や市民活動の支援となるハードに係る施策を遂行した。今後は新型コロナウイルス感染症などの社会情勢を踏まえ、整備された施設を使いこなすための社会福祉及び市民活動の支援などのソフト施策に係る事業を整備し、暮らしやすくコンパクトなまちづくりを図っていく。 そのためには、本市の取り組みだけではなく、対象地区の事業者や住民等との共同が必要であり、まちなか交流センター、那須塩原市図書館をはじめとする公共施設を中心に駅周辺地区の魅力づくりに取り組む地域コミュニティを形成していくことが重要である。 このように、本計画において整備した施設、支援施策を活かし、さらなる施設及び街路の整備、市民協働機会の創出を図り、地区の特性や多様なライフスタイルを反映した都市の実現を目指す。</p>			